

～痛みは歯の最終 SOS サイン～



歯科医院は怖いイメージが強く近寄りがたいせいか、痛みが出てから来院される方が多くみられます。しかし、痛みがなくなると歯科医院の存在も薄くなり、いつの間にか行かなくなってしまった…なんて方も多いのではないのでしょうか？痛みにも様々な原因がありますが、6月4日のむし歯予防デーに合わせて今回は「むし歯の痛み」についてお話します。

歯は大まかに言うと三層構造になっていて、外からエナメル質、象牙質、そして真ん中に歯の命となる歯髄があります。一番外側のエナメル質は体の中でもっとも硬い部分で、歯は水晶に近い位の硬さがあります。しかし、酸には弱く、歯を一晩酢に浸けておくとナイフで切れるほど柔らかくなってしまいます。なので、むし歯菌の出す酸によって歯が溶かされむし歯になるのです。むし歯は自然に治ることはありません。むし歯がエナメル質までの段階では痛みはありませんが、象牙質まで達し歯髄に近づいていくに連れて、冷たいものがしみたり、ひどくなると夜も眠れないほど痛みが出ることもあります。たまに、それでも市販の痛み止めで我慢する方がいらっしゃいますが、そのままむし歯が進行すると神経が死んでしまい痛みを感じなくなります。

痛みがなくなるのならそのままにしていってもいいのでは？と思った方は多いでしょう。しかし、歯髄は象牙質に栄養や酸素を送っています。その歯髄が死ぬと歯本来の抵抗力がなくなり、歯がもろく欠けやすくなってしまいます。さらに手遅れになると、歯のほとんどが崩壊し、抜歯になってしまいます。また、歯髄までむし歯が進んでいるかいないかで治療の内容もかなり変わってきます。歯髄まで達していないむし歯は、悪い所を取って部分的な詰め物をする治療で大体2、3回ですみますが、歯髄までむし歯が感染している場合は、歯髄をとって感染を取り除くまで何回も根っこの治療を受けなくてはなりません。また、根っこの治療が終わった後も、土台を立てて歯全体的な被せものになり、費用と期間がかかります。

上記のとおりむし歯は痛くなってからだと歯髄までむし歯が達している事が多く、手遅れになることも少なくありません。しかし、むし歯は自覚症状がない時期は自分で見つけることは困難です。たとえ痛みがなくても、定期的に健診を受けていれば早期発見早期治療に繋がります。また、毎日の歯みがきだけではむし歯を予防するのは難しいので、定期検診でチェックとクリーニングの両方を受けるとむし歯のリスクはグッと抑えられます。一本でもご自身の歯を守るために、「痛くなってから歯医者に行く」ではなく、「痛くなる前に予防をかねて歯医者に通う」に移行してみませんか？

何処？そこ！行ってみたい(隊)

今回は松橋にあるとんかつ屋さん「かつ嘉」さんに行ってきました！



この日はランチメニューのロースカツランチをいただきました。カツは衣がきつね色にカラッと揚がっていて、豚肉にもしっとり感があり、ちょうどいい揚げ加減でした。衣が薄いので脂っこくなくサクサクいただけました。ランチメニューは他にもヒレカツやおろしカツ、

カツ丼、しょうが焼き等8種類あり、ドリンク付きです。又、ごはん、みそ汁、キャベツは各一杯ずつおかわりもでき、男性でもおなかいっぱい食べられます。ランチメニュー以外でも1000円以上のメニューを注文するとドリンクサービスが付きます☆うれしいサービスですね！近くにお立ち寄りの際は、是非一度お食事されてみてはいかがでしょうか？

住所
宇城市松橋町曲野128-1

電話
0964-32-1910

営業時間
11:15~14:30
18:00~21:30

